



館長だより

山形県産業科学館

令和6年11月24日(日)

発行 館長 加藤智一

ブッシュクラフト



森などの自然環境の中における「生活の知恵」の総称と呼ばれる「ブッシュクラフト」はユーチューブでも盛んに取り上げられているので、ご覧になったことがあるという方も多いのではないのでしょうか。実は私も最近この動画にはまっている一人なのであります。ブッシュは英語で茂み、クラフトは英語で工作と訳されますが、工作というには規模がでかい。完全な住処をその辺の材料と、わずかな道具を使って建てちゃうんだからすごいです。野営やキャンプとどこが違うのかと言われたら、ちゃんと森で生活できるレベルの構造物を造ってしまうというところに違いがあるのかな？とは言っても「サバイバル」ほど命がけでもないし、「楽しむ」要素がふんだんにあって、「生きる知恵」という視点で見ても、とても勉強になります。ブッシュクラフトは元々、林業と木工文化が盛んだった北欧が発祥の地とされ、昔の木こりは、なるべく軽い荷物を持って森に入り、森での生活にその知恵や技術を活用したことから、現在も「荷物は最小限」がモットーなのだそうです。

現代の私達は、「時短労働」や「コスバ重視」といった言葉に代表されるように、何かしらの結果に至るまでの過程を楽しむという、心の余裕をどこかに忘れてきてしまいました。現代人が失ってしまった先人達の「生活の知恵」を学び直し、その知恵や技術を生かすことで、より自然を身近に感じることができるといえるものではないのでしょうか。ブッシュクラフトの世界からは、結果や成果は金銭収入で判断できるものではないことを再確認させてくれます。そう言えば近年、私の周りでも定年退職後、家庭菜

園にのめり込む方がやたらと多いのですが、同じことなのでしょう。

先日、NHK-BS の番組「こころ旅」でお馴染みの火野正平氏が亡くなりました。視聴者から寄せられた、「心の風景」を自転車でたずねる番組でしたが、自動車や列車からでは見逃してしまう些細な生き物の姿や自然の変化を火野さんは見逃さず私達に伝えてくれました。その事が視聴者の「心の風景」と上手く噛み合っ、ほのぼのとした感情を私達に伝えてくれました。自転車で行くからこそ伝わる土地の匂いや人情がこの番組にはありました。そうした、目的にたどり着くまでの「過程を楽しむ」余裕は、ブッシュクラフトや家庭菜園にも通じる大人の密かな楽しみとでも言いましょうか、分かる人には分かる大切な時間なのだと思います。

火野正平氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。



お堀のポート

先日、自宅近くの霞城公園お堀では、ポートを浮かべて、落ち葉の清掃作業が行われておりました。紅葉の季節も終わりかと感傷に浸っていたら思い出しました。そう言えば今年は「ながい百秋湖」に行っていない。紅葉を屋形船の遊覧船から眺めていない。まだやっているのかとHPを見てみたら、今年は7月の豪雨の影響で開催していないとのこと。近年の異常気象による災害は予測不能。昨年できたことが今年にはできないなんてことよくあります。

前例にとらわれず、柔軟に対応しなければならない時代の到来なのかもしれません。

